

月刊しばうら

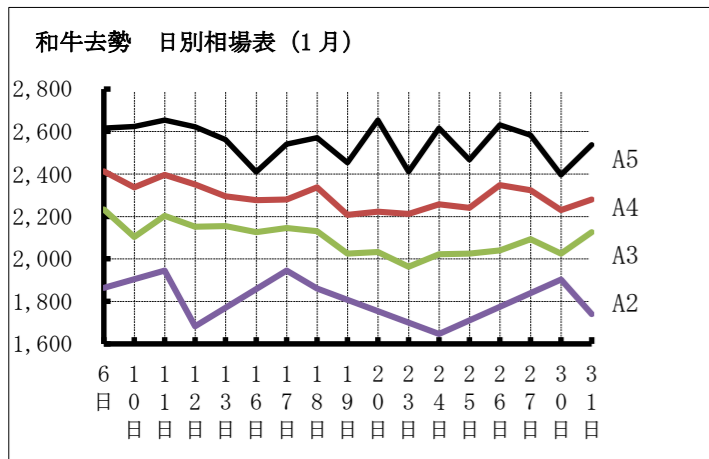
2023年 2月号

牛肉営業部

<1月の相場動向>

和牛相場は全等級で単価が前年を割り、交雑牛については、牛肉輸入量が前年割れの状況下において、交雑牛へのシフトが進んでいるものの、大きな相場上昇までには至らなかった。

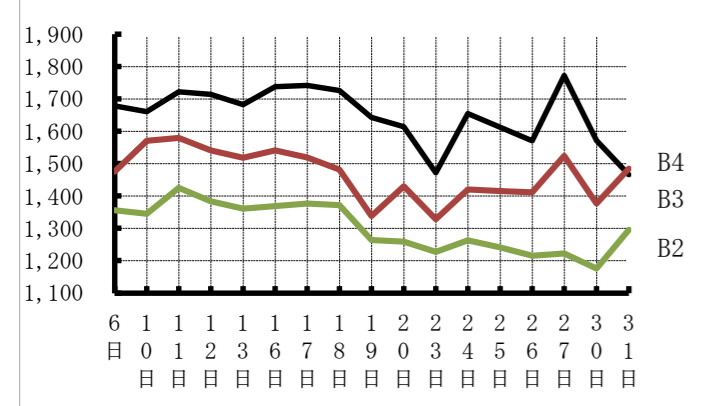
例年1月は食肉需要最盛期後の消費疲労により、牛肉需要は低迷するが、今年は上記要因に加え、多岐にわたる食料品目の価格上昇に伴う消費者の生活防衛意識の高まりにより、牛肉全体としての需要が縮小したと考えられる。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,579円	-60円 97.7%	-153円 94.4%
A4	2,307円	-52円 97.8%	-110円 95.4%
A3	2,105円	-46円 97.9%	29円 101.4%
A2	1,797円	-139円 92.8%	151円 109.2%

交雑去勢 日別相場表 (1月)



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,662円	38円 102.3%	-232円 87.8%
B3	1,482円	4円 100.3%	-125円 92.2%
B2	1,305円	-24円 98.2%	16円 101.2%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	-	-	-
B2	1,048円	35円 103.5%	-72円 93.6%

<2月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、12月の輸入量は前年同月比18.1%減の3万7,442tで、うちチルドは25.7%減の1万5,455t、フローゼンは前年同月比11.7%減の2万1,987tとなった。

農畜産業振興機構によると1月の牛肉輸入量は、前年同月比7.7%減の3万7,300t（チルド6.2%減、冷凍8.5%）、2月は7.6%減の3万4,900t（チルド8.6%減、冷凍6.8%）で予測している。輸入牛肉の減少については、買付自体の減少に加え、冷蔵庫の容量不足が要因となっており、この問題は春先まで改善されないとの見方もあるようだ。

輸入牛肉通関量	12月	前年同月	前年同月比	
チルド	豪州	6,458	9,072	71.2%
	米国	7,626	9,569	79.7%
	その他	1,371	2,200	60.0%
	合計	15,455	20,811	74.3%
フローゼン	豪州	9,130	10,255	89.0%
	米国	8,058	7,442	108.3%
	その他	4,799	7,203	66.6%
	合計	21,987	24,900	88.3%

出典：食肉速報 単位：t

<2月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による2月の出荷予測頭数は、全体で前年比107.1%の8万3,400頭で、品種別にみると和牛は6.4%増の3万5,700頭、交雑種は18.0%増の2万900頭、乳用種は0.9%増の2万5,400頭と予測している。

東京食肉市場の2月のと畜頭数は6,630頭を予定しています。

<2月の牛枝肉相場見通し>

2月は年間で最も牛肉需要が低迷する月であり、前月に引き続き価格が低迷すると考えられる。新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向にあるものの、外食産業をはじめとした牛肉需要が回復する要素は少ない。一方、入国制限の緩和により外国人の新規入国者数は増えており、12月には130万人を突破している。この傾向が継続すれば、牛肉需要の回復にとって明るい要素であるといえる。

2月 牛枝肉価格予測

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,450~2,800	B4	1,450~1,800
A4	2,200~2,450	B3	1,300~1,150
A3	1,950~2,150	B2	1,200~1,300
A2	1,800~1,950		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,000~1,050		

豚肉営業部

12月の全国と畜頭数は、前年同月比3.2%減の146万2,251頭。また12月の豚肉通関数量は6万8,932t（前年同月比7.5%減）と前年を下回り、前月比では21.6%の減少となった。内訳は、チルドが2万6,631t（13.1%減）、フローゼンが4万2,301t（3.7%減）となった。

2021-2022年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
12	82,143	74,466	22,912	145,676	80,677	83,541
1	79,561	82,518	23,226	154,046	79,136	74,148
2	73,703	71,813	23,161	156,035	73,664	69,824
3	83,139	71,938	24,001	156,094	82,191	71,779
4	76,226	108,81	22,232	169,980	77,840	94,930
5	72,433	77,418	22,442	176,959	72,091	70,439
6	73,206	89,288	21,153	192,277	74,366	73,970
7	67,448	83,013	21,249	200,051	67,235	75,239
8	70,579	86,492	20,365	207,966	71,378	78,577
9	72,682	72,520	19,371	204,472	73,540	76,014
10	75,562	75,744	19,698	196,107	75,147	84,109
11	81,124	87,886	18,751	195,556	81,933	88,437
12	79,634	68,853	19,816	185,413	78,413	78,996
比	97%	93%	87%	127%	97%	95%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t

12月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	13,458	81.6%	デンマーク	4,638	75.7%
カナダ	9,734	80.8%	スペイン	13,779	106.4%
メキシコ	3,438	164.3%	メキシコ	7,157	84.4%
			アメリカ	2,205	81.0%
			カナダ	2,030	79.2%
合計	26,631	86.9%		42,301	96.3%

単位：t

<1月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
6日	72,700	562	548	1,081
7日		591	575	1,004
10日	71,800	532	514	1,168
11日	72,000	536	516	1,075
12日	71,500	510	491	932
13日	71,000	498	479	1,095
平均	71,800/日			1,059/日

全国と畜頭数が7万頭を超える日が続いた。年末年始の反動や物価上昇が重なり、消費者の節約志向が高まったことで、豚肉需要に影響を与え、相場は軟調な展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
16日	70,900	491	476	849
17日	67,400	475	437	989
18日	66,700	475	446	796
19日	67,500	460	439	893
20日	68,600	464	449	1,052
23日	70,000	485	470	804
平均	68,517/日			897/日

相場は引き続き軟調に推移し、上物価格は500円を割り込む展開となった。消費低迷と供給量の増加によって、全体的に荷動きは鈍い状況が続いた。輸入物は通関遅れの影響が続いたが、ひっ迫感は見られなかった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	68,100	497	484	926
25日	65,700	527	499	651
26日	64,400	531	521	614
27日	68,600	582	569	854
30日	68,200	654	639	751
31日	68,800	643	614	683
平均	67,300/日			747/日

関東近郊では寒波による直接的な被害が少なかったが、日本海側や西日本を中心に最強寒波が襲来したことで、出荷、物流に影響が生じ、豚肉相場は一気に上昇し、30日には600円台を超える展開となった。

<2月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和5年2月の肉豚出荷予測では、132万3,000頭（前年比99%）と予測している。当市場の2月集荷予定せり頭数は1万6,500頭、1日あたりでは約868頭を見込んでいる。

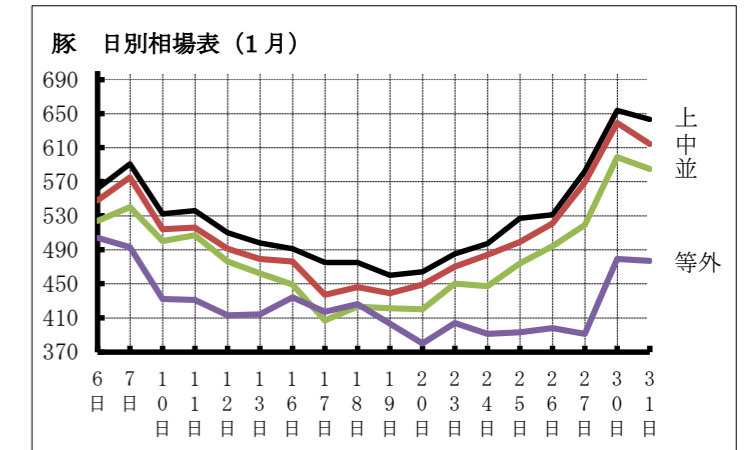
農畜産業振興機構によると2月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万1,500t（前年比99.6%）、内訳は冷蔵輸入量が3万2,100t（同91.4%）、冷凍輸入量は3万9,400t（同107.4%）と予測。

冷蔵品輸入量は、為替の影響や、北米における現地相場の高止まり等を理由に、前年同月を大幅に下回ると予測する。また、3ヵ月平均も前年同期を大幅に下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、北米の現地価格の高止まりや為替の影響があるものの、比較的安定したスペイン産の輸入が見込まれることなどから、前年同月を大幅に上回ると予測する。一方3ヵ月平均は前年同期をわずかに下回ると予測する。

2月は需要の端境期にあたるが、上旬は受験シーズンに伴うとんかつ需要が期待され、後半にかけて流通各社で決算セールが展開される。しかし、物価高騰により厳しい消費環境がつづいており末端需要はスソ物中心になると予想され、高級部位の動きには期待できない。また、国産凍結在庫が少ないものの、中間流通を凍結に回す状況ではなく、引き続きタイトな状況が継続する見通しである。一方、輸入品は昨年11月、12月の末端消費の不振から、2月の買付を抑えているようで、今後の価格次第では国産から輸入品へのシフトも予想される。供給面では、今年の猛暑や大寒波の影響により増体が悪く、全国的に出荷頭数が減少傾向となる展開が予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は580円前後、中物平均価格は550円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127